


加工たまねぎ栽培ごよみ

月 旬	8			9			10			11			3~5	6			7			栽培のポイント
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	
作 型	8/25~9/5 ○ は種						10/15~25 △ 定植						収穫						【生育初期】 ・年内の根張りを良くする ・適期植え、土壌改良で活着を早める 【生育後期】 ・雪解けとともに養分吸収が活発になる ・1枚でも多く葉をつくる 【生育後期】 ・病害、乾燥による枯れ上がりに注意	
主 要 管 理	育 苗						本 畑						収穫							
	準備・播種 8/下~9/上			追肥 準備 定植 10/上 10/中 10/下			追肥 除草剤 11/上 11/上			除草剤 3/下			追 肥 3/中 4/上 4/中			6/下				

1 栽培の考え方

- ◆作型 加工たまねぎは肥大が重要、県内では中晩生品種が向く
- ◆時期 播種が遅いほど、定植が遅いほど収量は低下する
逆に、早すぎると抽だいや分球が出る
- ◆土壌条件 根張りが良いほど気象変化に強い、通気性が良くpH6~7適正

2 品種特性

アトン: 中生種の大玉貯蔵用品種。ネオアース: 中晩生の極大玉貯蔵用品種。
七宝甘: 10月まで貯蔵可能な中早生品種。

3 セル育苗

(1) は種期の設定

- ・は種適期は9/1~5。地床育苗より苗が小さいので、早めに播種する。

(2) 本畑10a当たりの必要資材

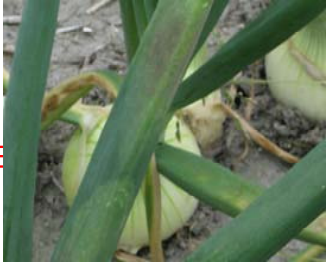
コート種子(2Lサイズ)	26,000~27,000粒
げんきくんネギ培土(15kg・35ℓ)	250ℓ程度
288穴セルトレイ、育苗箱	92~95枚
野菜播種板	2Lコート 288穴用
鎮圧板(あれば)	20(288穴用)

(3) は種のしかた

- ・トレイは穴の多いタイプの育苗箱に入れておく。
- ・トレイに専用培土を均一に詰め、根鉢ができやすいように十分にしめる。
- ・鎮圧板で均一の深さの播種穴を作り、1穴1粒ずつ播種する。
- ・5ミリくらい覆土後平らにする。

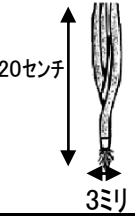
(4) 育苗準備

- ・ハウス内が25℃くらいになるように黒寒冷紗で遮光する。
- ・垂木や直管パイプを敷き、その上に90cm幅になるようにトレイを置く。
- ・露地育苗の場合は、寒冷紗などでトンネルがけを行う。



※.べと病の病斑

定植苗の目安



- ・育苗日数 50日
- ・草丈 20cm(数回せん定)
- ・茎の太さ 3ミリ
- ・生葉数 3~4枚

※葉色が濃く、徒長していない
病虫害がない苗

(5) 発芽までの管理

- ・初めのかん水は、覆土が流れないように細かい目で500ml/箱程度かん水する。
- ・発芽までは乾かないように、箱の上に遮光資材などをベタガケする。
- ・発芽したら遅れずに、天候を見ながら資材を取り除く。

(6) 育苗中の管理

①かん水

- ・発芽までは高温に弱いので、遮光等で30℃以上にならないように注意する。
- ・発芽直後は乾燥に弱いので、毎朝底まで水が入るように十分かん水する。
- ・育苗初期は高温や乾燥でしおれないように、多めにかん水する。
- ・本葉2枚以降は伸びやすいので、夕方には表面が乾く程度の朝かん水とする。

②追 肥

- ・本葉2枚頃から肥切れしやすくなるので、1週間おきに液肥をかん注する。
- ・かん水代わりに液肥は300倍程度、1トレイ450~500mlかん注する。

③葉切り

※葉の伸びと下葉の枯れ、ムレ防止のために行う

- ・草丈が18~20cmになったら、先端を5cmくらいカットする。
- ・その後も伸びる場合は数回行う。(定植までに3回程度カットする。)
- ※カット後は葉の切り口を早く乾燥させ、病気の発生を防ぐためかん水を控える。

④防 除

- ・発芽初期は過水分で立枯病が出やすいので、発芽後防除する。
- ・べと病や白色えき病が本畑で出やすいため、必ず苗床で防除しておく。

4 本畑準備

転作畑は弾丸暗きよ、明きよ、サブソイラー、高うね栽培とする

(1) ほ場の選定

- ・地下水位が低く、排水がよいほ場で栽培を基本とする。
- ・砕土を良くすると、定植後の活着・根張り・除草剤の効きに効果大。

(2) 砕土率向上のために

- ▲定植時期の10/下～11/上は天候不良でほ場の乾きが悪い
- ▲土壌含水量60%以上では耕耘しても砕土率が悪い

◎荒起こして水分を40%以下にしてから、2～3回ゆっくり耕耘する

◎砕土率向上、土塊2センチ以下が80%目標

◎活着良好！

5 施肥、本畑準備

(1) 基肥 (10a当たり)

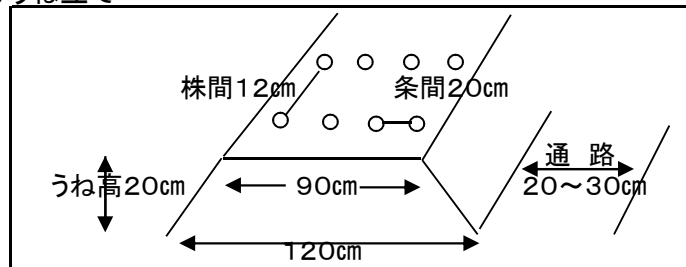
肥料名	施用量
堆肥	2000kg
苦土炭カル	160kg
MMB燐加安	80kg
ダブルリン又は重焼燐2号	40kg

※定植1週間前までには終わらせる

追肥(10a当たり)

時期	肥料名	量
消雪	NK化成	30kg
4/上		30kg
4/下	硫安	10kg

(2) うね立て



◆うね立て機～移植機～収穫機を使用する場合の栽植密度

うね幅	すそ幅	通路	床面	条数	株間	10a株数※
140cm	120cm	20cm	90cm	4	12cm	24,000
150cm		30cm				22,500

※補植苗として2割程度多めに育苗する

(3) 定植のポイント

- ・耕耘～うね立て～定植まで、連続して短期間で終わらせる。
- ・天候が不順な時期のため、排水対策を行い、適期定植を心がける。

6 定植作業

- ・平野部では10/下～11/上が定植時期となる。
- ・定植数日前に、500倍程度の液肥等をかん水代わりに与えておく。
- ・植え付けは2cm程度の深さに植える。
- ・定植後は株元の土を十分に押さえ、欠株の補植を行う。

7 定植後の管理

(1) 除草

- ・除草剤を使う場合は、活着後(5日目頃)と融雪後早め(3/下)に散布し、雑草の発生を防ぐ。※定植後→ゴーゴースン乳剤・融雪後→トレファノサイド乳剤

(2) 追肥

- ・定植以降、葉色が薄い場合は年内に1回行う。
- ・通常は融雪後(3/中)と4月上～下旬の3回程度とする。
- ・遅い追肥、多肥は腐敗につながるため、生育を見ながら量を加減する。

(3) 中耕

- ・土壌の通気性向上と除草を図るため、春先の中耕を行う。

(4) 乾燥防止

- ・4～5月の生育～肥大盛期に乾燥が続く場合、かん水は効果的。
- ・かん水できない場所では、敷きわらなどを敷いても効果がある。
- ・収穫間際のかん水は控える。

8 収穫

- ・貯蔵用品種は、茎葉が6～7割倒伏した時点で収穫を行う。
- ・降雨は貯蔵中の腐敗につながるため、2～3日晴天が続いたあとに収穫する。

9 出やすい病害の症状と対策

病虫害名	症状及び対策	防除薬剤名
べと病	葉に楕円形の黄色っぽい病斑ができる。低温多湿期に出やすい。→早期防除、発病株の抜き取り	レーバスフロアブル ランマンフロアブル
さび病	葉にオレンジ色の斑点ができ、進むと変色枯死する。春秋期の低温期に出やすい。→予防散布、肥切れさせない	ジマンダイセン 水和剤
黒斑病	葉に輪紋状の病斑ができ、スのようなカビがつく。→排水対策、早期防除、肥切れさせない	ロブラール水和剤 ジマンダイセン 水和剤
白色疫病	葉に油浸状の病斑ができ、症状が進むと葉全体が白く葉枯れ状態になる。晩秋から春先に発生しやすい。玉肥大が阻害される。→排水対策、輪作	ランマンフロアブル ダコニール1000
灰色腐敗病	地際葉鞘部や貯蔵中の玉が褐変腐敗し、灰黒色のカビがつく。生育中期から収穫期の多雨で出やすい。→多肥・遅い追肥を避ける、排水対策	スミレックス水和剤 ロブラール水和剤